

№６７
令和７年１２月１日
発行　多治見市教育研究所
URL: http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

巻頭言

「教師は、五者たれ！」

笠原中学校　校長　熊崎　健一

３０代前半の頃に私が得た学びを、みなさんに共有したいと思います。当時の校長先生が、４月の職員会議の終わりにこんな話をされました。

「教師は、五者たれ！」

「ところで、みなさん、五者は分かるかね？」

その直後、手元の週案にスラスラと文字を書き始めた先輩が何人かおみえでした。私はというと「…」無知な自分への焦りか、悪い汗を掻いていました。校長先生は、ニッコリと微笑んで白チョークを手に取り、次の五つの「者」を板書されました。

「学者」・「役者」・「易者」・「芸者」・「医者」

そして、それぞれが必要な意味を説かれました。

「学者」：豊富な知識と専門性、卓越した課題解決能力を備え、子どもを教え導く。

「役者」：子どもの心を惹きつけて魅了し、信頼関係を築き、良好な集団を構築する。

「易者」：未来を切り拓く子どもの秘めた力を見抜き、寄り添い、夢を後押しする。

「芸者」：認め励ましによって学びの場を盛り上げ、できる・分かる喜びに浸らせる。

「医者」：子どもの悩みや心身の変化などに目配りし、適切な指導に万全を期す。

お話は「なるほど！」で、すんなり腹に落ちました。

みなさん、すでにお気付きかと思いますが、これらは、教科指導・学級経営・進路指導・学習評価・教育相談・健康教育などにあたり、教師にとって必要不可欠な資質・能力です。一方で、当然ですが、我々教師一人ひとりには得手・不得手があり、その習熟の度合いも経験や努力などによって異なります。また、一足飛びにすべてを身につけようとしてもなかなか難しいでしょう。大切なのは、それぞれの要素のベーシックな部分をある程度バランスよく身につけたうえで、自分の強みに磨きをかけたり、足りないところを意図的に補ったりしていくことです。それが、教師としての自己を確立することであり、きっと、我々の自己肯定感や自己有用感を高めることにもつながっていると思うのです。

随分後になってから「五者」の出処を調べてみたこともありますが、はっきりしたことは分かりませんでした（私の調べが浅かっただけかも…）。ただ、中には 1970 年代初頭にすでに使われていたという説？もありました。いずれにしても「うまいこと言った人がいたもんだ！」と感心させられます。

先の校長先生に教えていただいたこのお話は、その後、私自身を見つめる物差しになりました。そして、時折この物差しを取り出しては「自分は、まだまだ未熟。教師は、一生修行の身。」と自分に言い聞かせてきました。また、校長を拝命してからは、職員にも伝えてきましたし、初任者研修や教育実習生への講話などでも話してきました。私は、ついつい「みなさん、五者ってご存じですか？」と問いかけてしまいます。多くの場合、当時の私と同じように困惑の表情を浮かべる方が大半です。でも、決して意地悪く問うているわけでなく、自分自身への戒めと、共に学び続ける教師で在りたいという願いを込めてこの“金言”を伝えているのです。

さて、ここからは余談です。当時、私は教職１０年目。小学校も中学校も経験し、それなりに教師としての自信みたいなものもありました。でも、実際は、自分を一人前だと勘違いしているただの未熟者でした。そんな私は、中３を送り出した３月から、異動した４月には小１の担任となりました（私の小１ギャップ）。今では考えられないハードな勤務に加え、単身赴任などの諸事情も重なり、正直、心身ともにかなりキツイ時期でした。それでも、心折れることなく何とか乗り越えられたのは、校長先生の教えが拠り所になっていたからだと思います。

愛車は、ベンツ。かなり型破りで根っからの学者肌。愛犬のウェルシュ・コーギーをこよなく愛し、親分肌で人情味が厚かった校長先生は、残念ながら、昨年、お亡くなりになりました。あっという間に、私も当時の校長先生と同い年になってしまいましたが、「五者」にはまだまだ及びません。だから、今しばらく“修行の道”を歩み続ける覚悟です。

令和7年度　教師塾セミナー・子ども向け得意セミナーを実施しました

●子ども向け得意セミナー

この講座は、学校の先生方が自分の得意な領域について、その魅力や楽しさを子どもたちに伝え、子どもたちが、「できた」という達成感を味わうと共に一層の興味を高めて欲しいという願いで実施をしています。今年度の実施の様子についてお知らせします。

講座名と参加人数

講座名	定員	申込数	参加人数
科学作品	60	27	24
まが玉	30	44	30
書道	20	18	17
プログラミング	30	48	27
ポスターをかこう	30	43	20
	170	180	118

以下に参加者の感想を一部紹介します。

実際に行ったことを振り返りまとめることが苦手な子なので、考え方に気をつけるよい機会となりました。（保護者）（科学作品）

これをやる前は、字がきたなかったけど、これをやって「日」の字がとてもうまくなってびっくりした。もっと練習して書道がうまくなりたいです。（書道）

ポスターを描く時に「こうしたらいいんじゃないかな？」「すごいね！」などとほめてもらったり、手伝ってくれたりしてとても楽しかったし、うれしかった。（ポスター）

好きな形や色ができてとても楽しかったです。簡単に教えてくれて、とても分かりやすかったです。（まが玉）

プログラミング講座で、こうしたらこう動くなどのことがわかってきたし、自分で動かせるようになってきたらとても楽しかったです。（プログラミング）



プログラミング講座（子どもたちがドローンを操作している様子）

●教師塾セミナー

学校の夏季休業期間を活用して、教員の資質向上を願っていろいろな領域において研修を行っています。今年度の実施の様子についてお知らせします。

講座名と参加人数

講座名	参加人数
教員コミュニケーション研修	63
実践論文	17
生成ＡＩ研修	30
いきいき運動遊び	25
NEW! GIFU ウエブラーニング研修	9
ロイロノート研修（基本編）	10
ロイロノート研修（応用編）	9

以下に参加者の感想を一部紹介します。

論文の組み立て方や、実践を行う際の視点を教えていただいたり、アドバイスをしていただいたりしたことで、自分のめざす姿や取り組みたいことがより明確になったように思います。主題として掲げた目指す姿を見失うことがないよう、日々の授業を作っていきたいです。
【実践論文】

子どもにどんな力をつけたいか、何ができるようになってほしいかという目的を見失わないようにすることを改めて大切にしようと思いました。幼稚園や保育園の先生方の発想力のすばらしさに驚き、新鮮な体験ができました。
【いきいき運動遊び】

ロイロノートでこんなことができるなんて！！の驚きの連続でした。いろいろな活用方法を目の当たりにできて、“これは使ってみよう！なんとかできそうな気がする”という気持ちになりました。　【ロイロ講座（応用編）】

セミナーで学ばれたことが実践の場で生かされ、児童生徒等の深い学びにつながっていくことを願っています。



いきいき運動遊び（先生方が遊びを工夫している様子）

土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」
4. 5. 6期の成果と想い

第4期　多治見陶磁器探検隊②
～多治見上絵付に挑戦～
小泉蔵珍さん実演　(7/5)

Ⅰ.受講生より

1.参加して新しく発見したことは何ですか？



・タイルや器に上絵付をする時は、専用の絵の具を使うということが分かった。(小６)
・赤に違う色を混ぜると美しくない色になることを初めて知った。(小２)
・焼く前は白だったのに、焼いた後は色が付くことを初めて知った。(小６)
・職人さんの手の動きがすごく速くてびっくりした。タイルに絵の具を付けるのはとても難しく、手もいたくなるほどだった。(小３)
・手描きをしている人は減ってきていること。(小４)
・職人さんたちが伝統を守り続けていること。(小１)

2.50年後の多治見はどうなっている？

・陶器の店や食器の店が有名になってほしい。(小２)
・今多治見で講座があるから、50 年後は、陶器であふれる多治見市になっていると思う。(小４)
・上絵付職人さんはもっと少なくなっていると思うけど「上絵付」は残っていると思う。(小５)
・焼き物が町のいろいろな所に飾られ、オシャレできれいな町になっている。(カラフルで町の人の心が見ているだけで明るくなるような)(小１)

3.未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！

・私は、たくさんのやきものなど、いろいろ作ってみたいから、そのために作る講座をたくさん開催してほしい。(小４)
・私は絵を描く人になりたい。そのために、絵の具で絵を描くことに慣れておきたい。そうすれば、手描きの陶器屋さんになれるかもしれない。(小４)
・多治見の陶器に関係する仕事をしてみたい。(小６)
・私は陶器を作る人になりたい。そのためにたくさんの講座に出て陶器のことを知りたい。(小４)
・私は陶器屋さんをやってみたい。そのために陶器のことをもっと知りたい。(小３)

※今回の講座により、１３%の受講者が多治見の陶磁器産業と関連した自分の将来の夢をイメージした。

4.その他参加して思ったこと

・多治見にはかっこいい人や文化があるんだなぁ。この文化を僕も大事にしていきたい。(小１)
・先生たちが一生懸命教えてくれて、とてもわかりやすかった。本当にたくさんの人に感謝を伝えたい。本当にありがとうございました。(小４)



・最初は簡単だと思ったんだけど、やってみると難しく、思い通りにいかなかった。職人技になるには、何を頑張ればいいですか？(小３)

※「技を見てひたすら真似ること２０年！」と、おっしゃってました。

・小泉さんのように、みんなに「すごいね！」と、認めてもらえるような人になっていたいな。今は「すごい！」と言ってもらえる特技を見つけて力を付けていきたい。(小１)
・上絵付の実演を見ることによって上絵付の仕事が分かり、自分でやってみることで、その技術の素晴らしさが伝わったのではないかと思う。(小３)

第5期　多治見陶磁器探検隊③
～現代陶芸家になろう～　(8/30)
in セラミックパーク MINO

Ⅰ.受講生より

1.参加して新しく発見したことは何ですか？

・伊藤慶二さんが描いた絵や陶器や布、いろいろな作品が飾ってあって、とてもすごかった。(小５)



・伊藤さんの作品がたくさん工夫してあって、私は絵が気に入った。(小４)
・美濃焼などの焼物は、お茶碗やコップ、お皿など食器だけではないことがわかった。(小４)
・絵付け体験の時、紙（転写シート）を水に浮かべて貼ることを初めて知った。(小３)
・陶器を作る人たちは、いちいち絵を描かなくてもいいように転写シートを貼って、陶器の生産量を増やして日本全国に広げているから陶器は岐阜県がとても有名だとわかった。(小４)
・バックヤードに行って楽しかった。(小１)
・人が持てない展示物は、2000kg まで持つことができるクレーンで運ぶことがわかった。(小４)
・実際に作家さんの作品をみてから体験することで、子どもの興味や理解が深まったようで貴重な学びになったと思います。(小３保護者)

2.50年後の多治見はどうなっている？

・いろいろな陶器がいっぱいあって、殺人事件とか無くて、幸せに暮らせる町になっている。(小３)
・陶芸を次の子どもたちへつないでいる。(小６)

3. 未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！



・伊藤慶二さんみたいに、器や焼き物を作る人になりたい。（小２）
・私は陶芸のことを次の子どもたちにつなげていきたい。そのために陶芸のことをもっと知りたい。（小６）
・陶芸家になりたいから、土曜学習にたくさん参加したい。（小４）
・私は陶器でたくさんのお皿作りをやってみたい。そのために、少しでも勉強して陶器に詳しくなって、お皿を作れるようにがんばりたい。（小３）
・陶器にいろいろ貼ってみたい。そのために陶器のことを知りたいです。　（小２）
・私は陶器屋さんをやりたい。もっと陶器のことを知りたいです。　（小３）
・私は陶芸家になりたい。そのために、たくさん陶器などを作りたい。（小４）
・多治見が陶器で有名になるために、どんどん陶器を買って使いたい。（小５）

※今回の講座で、１７％の受講者が多治見の陶磁器産業と関連した自分の将来の夢をイメージしている。

4. その他参加して思ったこと



・セラミックパーク美濃を管理している人たちも優しかったし、教えてくださったボランティアの方々もいろいろな発想があって楽しかった。（小５）
・中学生ボランティアの人が優しかったのでうれしかった。（小１）

Ⅱ. 中学生ボランティアより

1. 参加して新しく発見したことは何ですか？

・何でもそのまま表すだけでは、本当の意図を伝えられないと伊藤さんの作品を見て思った。（中２）
・小学生の子が積極的にたくさん質問していたので、知識が増えた。（中２）

2. 50年後の多治見はどうなっている？

・陶磁器の製造技術が上がりクオリティーの高い陶芸作品を作れるようになり、より多くの陶磁器を生産でき世界の陶磁器のシェア率を上げ、より有名になっている。（中１）

3. 未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！

・陶芸家になりたい。そのために積極的にイベントに参加し美術の授業にまじめに取り組む。（中１）

4. 中学生ボランティアに参加して

・グループの子たちはとても素直に呼びかけに応じてくれて助かった。テスト明けで色々大変な部分もあったが、とても楽しい講座だった。ぜひ来年も参加したい。（中２）

第6期　多治見タイムマシン大作戦②
～100年前　虎渓山永保寺の旅～　（9/27）

1. 参加して新しく発見したことは何ですか



・永保寺が国宝に指定されていること。（小3）
・宝篋印塔がお墓だということが分かった。（小4）
・虎渓山の名前は、中国の風景から名づけられたということ。（小6）
・観音様の周りにある土岐川の流木が108本使われていて、この地域の材料が何百年も残っているということ。（小3）
・イチョウの木が火事の時燃えなかったこと。（小6）

2. 50年後の多治見はどうなっている？（といいな。）

・これからも大切に残していって、ずっと多治見の宝物であってほしい。（小３）
・有名になり外国からの観光客も増えている。（小４）

3. 未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！



・多治見市には、古くからあるお寺や行事などがあり、その一つひとつに歴史があるから、これからも未来で残したい。　（小4）

56%の受講者が、多治見の歴史や文化に対する願いと自分の将来の夢を結びつけて考えることができた。

4. その他参加して思ったこと

・永保寺が火事で焼けちゃったのに大イチョウの木は残ってて本当によかったと思った。（小3）
・永保寺の国宝でふだん見ることができない所を今回私たちのために見せてくれたのでうれしかった。（小6）
・子どもなりに「後世に残すべきもの」を感じ取ったようです。心に残る学びの機会をいただき、ありがとうございました。（小3保護者）
・永保寺を通して過去・現在・未来を一緒に考えました。（小3保護者）

Ⅱ. 中学生ボランティアより

1. 未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！



・もっといろいろな仕事を知りたいのでまたボランティアに参加する。（中2）
・外国人観光客も、たくさん訪れるといいなと思うので多治見の魅力を発信するお手伝いをしたい。（中2）

2. 中学生ボランティアに参加して

・ボランティア活動に参加している人の優しさが、多治見のよさ。（中1）
・多治見市は土曜学習があるので他の学校の人とも仲よくなれ、サポーターさんとも仲よくなれるのがいい。（中3）